

登録コード	EKF24900	開講年度	2026			
授業科目	音楽科授業内容研究				担当教員	中島 卓郎 他
英文授業名	Study on Pedagogical Content (Music)				副担当	齊藤 忠彦・井田 勝大・田島 達也・桐原 礼
単位数	1	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5時限	
講義室			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ, 2 4 E A カリ					
	教育の専門職としての学識・技能				⇔	音楽教育における教育学、音楽、器楽、作曲・理論の各専門分野に関連させて教科内容を捉えることができる。
	2 4 E A カリ				⇔	初等・中等教育の目的に絡めながら、主として授業内容に関する課題を、教科の背景としての学問の専門性を通して認識することができる。
(2)授業の概要	音楽教育における教育学、音楽、器楽、作曲・理論の各専門分野に関連させて教科内容を捉える。初等・中等教育の目的に絡めながら、主として授業内容に関する課題を、教科の背景としての学問の専門性に基づいて学ぶ。					
(3)授業計画	第 1 回： 音楽の指導内容(表現・鑑賞)について、主として認識論の立場から考察する。(中島) 第 2 回： ドイツの音楽科学習指導要領について学び、示唆を得る。(中島) 第 3 回： 学習指導要領に示されている音楽科の指導内容を確認し、それらに関わる先行研究を理論的研究と実践的研究に分けて概観する。先行研究を踏まえて音楽科授業内容に関わる全体的な課題をつかむ。(齊藤) 第 4 回： 器楽演習指導における必要事項について考察する。その上で、器楽演奏の音楽的向上を念頭に置いた指導法について検討する。また、実際に器楽合奏のスコア(総譜)を分析し、楽曲合奏の指導内容・指導手順について検討する。(井田) 第 5 回： オペラ・オペレッタ・ミュージカルなどの各音楽劇のジャンルについて、それぞれに共通する点や異なる点について講義を行い、それぞれのジャンルの特徴を理解する。また、演奏の視聴を通して声や歌唱法の違いを理解する。(田島) 第 6 回： 主として日本の音楽・世界の音楽に関する鑑賞教材を取り上げる。選択した教材の教材性および指導内容について検討するとともに、取り扱いの難しさなど課題についても整理する。(桐原) 第 7 回： ドイツのアビトゥア試験内容について学ぶ。(中島)					
(4)成績評価の方法	・各回の発表内容(40%)、質疑応答・議論の内容(20%)、およびレポート(40%)によって評価する。 ・評価割合は、若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可					
(5)履修上の注意	授業日程や開催場所を変更することがある。					
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー: 担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、別表「担当教員のオフィスアワー」を参照すること。 中島:N409室にて随時。研究室電話番号:026-238-4137 メールアドレス:pf-naka@shinshu-u.ac.jp					
(7)成績評価の基準	「卓越している」 (1)研究課題, (2)理論的枠組み, (3)授業内容と専門性, (4)研究の意義, のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)~(4)のうち3つ以上について発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「かなり上である」 上記(1)~(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)~(4)のうち2つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「やや上にある」 上記(1)~(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)~(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「水準にある」 上記(1)~(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できている。					
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】 質疑応答・討論のための資料を準備すること。また, 研究課題に関連した文献等を, 図書館等で検索・収集し, 研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり, 吟味したりすること。 【事後学習】 質疑応答・討議を通じて生まれた課題について, 事後に各自で調べて再検討すること。					
【教科書】	適宜紹介					
【参考書】	適宜紹介					